

市民意識と都市づくりの課題

ー住まい、交通、都市拠点等に関する北九州市民意識調査を通じてー

伊藤 解子

- I はじめに
- II 住まい、交通、都市拠点等に関する北九州市民意識調査
- III 市民意識調査を踏まえた都市づくりの課題
- IV おわりに

<要旨>

本研究は、望ましい都市構造の実現や都市機能の維持に向けて、市民による住まいや交通手段の選択意向、まちづくりへの期待などを踏まえた取り組みが必要という観点から、アンケート調査によって住まいや交通、都市拠点などに関する市民意識を把握するとともに、市民の共感にもとづく都市づくりのあり方について考察を行った。

<キーワード>

市民意識 (Citizen's consciousness)、街なか居住 (Living in mature urbanized area)、中古住宅 (Existing house)、公共交通 (Public transport)、都市拠点 (City center)

I はじめに

1. 研究の背景

経済社会構造の変化や人口減少時代の到来によって都市政策のあり方は大きな変革を迫られているが、とりわけ、人口・世帯が減少するなかで都市の住みよさや魅力を維持していくための取り組みは、都市の将来を左右する課題として重要である。国においても、全国共通の重点課題として、中心市街地の機能回復、産業構造の変化への対応、環境負荷の小さな都市の構築、職住バランスのとれた大都市の都心構造の構築、高齢者が生き生きと暮らせる環境の実現、防災上危険な市街地の改善などに向けた政策的対応が図られているが⁽¹⁾、それらの課題に対して一律的な解決策はなく、都市それぞれの特性や諸事情とともに、市民意識を踏まえた過不足のない取り組みが必要である。

北九州市は、大都市のなかで人口減少、高齢化が先行するなかで、医療・福祉、子育て支援などの分野では全国的にも注目される実績を築いてきた。また、環境分野でも公害克服から環境産業、国際協力まで各種の先進的な取り組みによって世界的にも注目されている。そのような取り組みは市民の共感や協力を得て進捗してきたといえるが、全国とも共通する上記のような課題について、市民の関心はさほど高いとはいえない。

しかしながら、公共交通の縮小、店舗撤退、空き家の増加などにともない、市民が自らのライフスタイルや都市の将来について改めて考えざるを得ないという状況は確実に広がっており、

市民による住まいや交通手段の選択意向、まちづくりへの期待などを踏まえて、望ましい都市構造の実現や都市機能の維持に向けた先導的な取り組みが求められている。

2. 研究の目的と方法

本調査研究では、今後の都市づくりのあり方や必要な施策等の検討に資することを目的に、北九州市民を対象に、住まいや交通、都市拠点等に関するアンケート調査を実施した。

本稿では、その調査結果を紹介するとともに、市民意識を踏まえ、市民の共感にもとづく都市づくりのあり方について考察を述べている。

表1 アンケート調査の実施概要

対象 調査方法	北九州市内に居住する20歳～69歳の市民(マクロミル社モニタ会員)を対象にWEB調査を実施
調査期間	2012年2月15日～20日
有効回答者数	520人
主な調査内容	・現住地への不満・不安 ・住みたい場所 ・住みたい住宅 ・利用したい交通手段 ・望ましいまちづくり

Ⅱ 住まい、交通、都市拠点等に関する市民意識調査結果

1. 現住地への不満・不安

(1) 現住地への不満

「今住んでいるところについて、何か不満はありますか(複数回答)」という設問に対し、「特に不満はない(41.1%)」は約4割であり、現住地について何らかの不満を持つ人が、約6割を占めている。不満は、多い順に「公共交通の利便性が悪い(17.5%)」、「日常の買い物が不便(13.3%)」、「通勤先までが遠い(11.5%)」と続き、交通や買い物に関する不満が上位を占める。次いで「街並の景観や雰囲気などがよくない(11.0%)」が多く、居住地評価において、買い物や通勤の利便性とほぼ同等に景観や雰囲気が重視されていることがわかる。

一方、回答数が少ないのは、「近くに福祉施設が少ない(3.1%)」、「教育・子育て支援施設が少ない(3.5%)」、「子どもの学校までが遠い(3.5%)」、「近くに医療機関が少ない(3.7%)」などであり、医療・福祉施設や教育施設との近接性について不満を持つ人は少ないといえる。

性別では、男女間の差はほとんどないが、『自然災害の被災の恐れ』については、女性の方が男性よりも不満度がやや高い。

年齢別では、若いほど何らかの不満を持つ人が多く、20歳代では約7割が何らかの不満を感じている。20歳代は『景観や雰囲気』、30歳代は『通勤』、40歳代は『周辺道路』、50歳代は『日常の買い物』、60歳代は『救急医療機関』に関する不満度が、他の年齢層に比べて高い。

行政区別では、「特に不満はない」の割合が大きいのは小倉北区で約5割、一方、小倉南区では約3割で、何らかの不満を持つ人が約7割を占める。また、他区と比べて不満度(回答率)が比較的高いのは、門司区の『買い物』、小倉北区の『景観や雰囲気』、小倉南区の『公共交通』、若松区の『公共交通』、『救急医療機関』、八幡東区の『通勤』、『公園』などである。

市内居住歴別では、居住歴5年未満で「特に不満はない」の割合が小さく、『買い物』や『周辺道路』、『公園』に関する不満度が比較的高い。また、居住歴10～20年未満で『通勤』と『景観や雰囲気』、20年以上で『公共交通』に関する不満度が比較的高い。

職業別では、「特に不満はない」の割合が大きいのは主婦で約5割である。一方、非正規の雇

用者では約 2 割にとどまり約 8 割が何らかの不満を持つ。正規雇用者の『通勤』、非正規雇用者の『公共交通』、『通勤』、学生の『買い物』、『公園』などに関する不満度が比較的高い。

家族構成別では、単身世帯や夫婦だけの世帯に比較して、20 歳未満の子がいる 2 世代世帯の方が不満度が高い。

住居の種類別では、持ち家のマンション居住者の不満度が比較的低い。なかでも『公共交通』の不満度が低く、分譲マンションの多くが交通条件の良い場所に立地していることがわかる。

居住希望地別では、郊外居住希望者の方が街なか居住希望者よりも不満度が大きい。現住地において『公共交通』や『買い物』、『通勤』などの不満を抱えていても、転居するときに郊外居住を希望する人が少なくない。

都心居住意向別では、都心に早い時期に移り住みたいという人の 9 割近くが、現住地に何らかの不満を持っており、特に『公共交通』や『買い物』に関する不満度が高い。現在、都心に住んでいる人は総じて不満度は小さいが、例外的に『景観や雰囲気』に関する不満度が高い。

(2) 現住地への不安

「今後、高齢化や人口減少が進む地域では、空き家の増加や日用品店舗の撤退などが予想されていますが、あなたが住んでいる地域についてそのような不安を感じていますか」という設問に対し、「すでに空き家が増えつつあり、店も無くなって、不安や不便を感じている (7.9%)」は 1 割未満であるが、これに「高齢化が進んでいる住宅地なので、近い将来そのようになるという不安を感じている (18.3%)」及び「今は心配していないが、将来はそのような不安を感じるようになると思う (27.1%)」を合わせて過半数が、現在から将来への不安を意識している。一方、「先のことはわからないので、あまり不安や心配は感じていない (22.5%)」という回答も、2 割以上を占めている。

性別による不安感の差はあまりないが、年齢層別では、50 歳代で『将来不安』、60 歳代で『すでに不安』、『近い将来不安』の割合が比較的大きく、高齢期を前にして不安意識が高まっていることがうかがわれる。ただし、『先はわからない』の割合が最も大きいのも 60 歳代であり、年齢層が高いほど不安意識の差も大きい。

行政区別では、門司区は『先はわからない』、小倉北区は『不安はない』、小倉南区と八幡西区は『将来不安』、八幡東区は『近い将来不安』、若松区と戸畑区は『すでに不安』、『近い将来不安』の割合が、他の行政区に比べて大きい。

市内居住歴別では、居住歴が長いほど不安意識は強い。それに対して居住歴 5 年未満では、引っ越しを考えている人が 3 割弱を占めており、不安意識は比較的に弱い。

家族構成別及び住居の種類別では、地域との結びつきが強いと思われる 3 世代世帯（親と子と孫）や持ち家の一戸建の居住者の不安意識が比較的に強い。

居住希望地別では、街なか居住希望者に比べて郊外居住希望者の方が、現住地の将来に不安を感じている人の割合が大きい。街なか居住希望者は『すでに不安』の割合が比較的大きいが、現住居が街なかにあり『不安はない』という割合も大きい。

都心居住意向別では、不安意識が強いほど都心に移り住みたいという意向が強い。できるだけ早い時期に移り住みたいという人の 1/4 が『すでに不安』という意識を持っている。

表2 現住地への不満・不安

回答率が高い順に 1 2 3

		標本数	(1) 現住地への不満 (複数回答)														(2) 現住地への不安						
			特に不満はない	近くに医療機関が少ない	近くに福祉施設が少ない	救急医療機関が遠い	教育・子育て支援施設が少ない	公共交通の利便性が悪い	日常の買い物が不便	子どもの学校までが遠い	通勤先までが遠い	自然災害の被災の恐れがある	敷地や前面道路が歩き難い	周辺の道路が狭く車が入れない	公園が少ない	街並の景観や雰囲気などがよくない	その他	すでに空き家が増えつつあり、店も無くなつて、不安や不便を感じている	今は心配していないが、将来はそう思う	高齡化が進んでいる住宅地なので、近い将来そのようなことになるという不安を感じている	不安を感じていない	街なかに住んでいるので、あまり不安や心配は感じていない	いずれ引っ越すを考えているので、あまり不安や心配は感じていない
全体		520	41%	4%	3%	9%	3%	18%	13%	3%	12%	4%	10%	8%	7%	11%	10%	8%	18%	27%	16%	7%	23%
性別	男	270	41%	5%	4%	9%	3%	18%	14%	3%	12%	2%	10%	8%	8%	12%	11%	9%	18%	27%	17%	6%	22%
	女	270	41%	2%	2%	9%	3%	17%	12%	3%	11%	6%	11%	8%	7%	10%	10%	7%	19%	27%	15%	8%	23%
年齢	20～29 歳	104	32%	6%	2%	7%	7%	19%	15%	6%	16%	6%	10%	7%	13%	19%	13%	5%	18%	27%	15%	12%	22%
	30～39 歳	104	37%	3%	2%	10%	5%	21%	12%	3%	19%	1%	11%	9%	7%	12%	11%	8%	14%	27%	19%	13%	19%
	40～49 歳	104	36%	6%	6%	13%	5%	20%	10%	6%	10%	7%	13%	13%	9%	12%	14%	9%	19%	25%	19%	6%	21%
	50～59 歳	104	43%	2%	1%	5%	1%	17%	18%	2%	8%	2%	12%	5%	7%	6%	11%	7%	18%	33%	15%	2%	23%
	60～69 歳	104	59%	2%	5%	13%	0%	10%	12%	1%	5%	6%	7%	7%	2%	7%	4%	12%	21%	24%	13%	3%	27%
行政区	門司区	49	45%	2%	2%	6%	2%	12%	20%	8%	16%	6%	14%	12%	6%	4%	16%	8%	14%	29%	12%	4%	31%
	小倉北区	134	51%	1%	1%	3%	2%	9%	6%	3%	5%	3%	9%	9%	6%	16%	10%	9%	16%	19%	28%	5%	22%
	小倉南区	93	29%	6%	3%	10%	5%	25%	19%	5%	8%	9%	15%	10%	13%	10%	9%	3%	16%	40%	11%	10%	19%
	若松区	44	39%	11%	11%	30%	2%	34%	16%	2%	16%	7%	7%	7%	7%	9%	9%	11%	27%	27%	7%	5%	23%
	八幡東区	26	42%	0%	0%	0%	4%	19%	4%	0%	19%	8%	8%	4%	15%	8%	15%	8%	42%	15%	8%	8%	19%
	八幡西区	143	40%	3%	4%	11%	5%	20%	13%	3%	16%	1%	9%	6%	6%	13%	9%	8%	15%	30%	15%	8%	23%
市内居住歴	戸畑区	31	39%	3%	0%	10%	0%	6%	19%	0%	10%	0%	10%	6%	0%	3%	10%	13%	23%	16%	19%	10%	19%
	生まれたときから	154	44%	3%	4%	11%	5%	14%	12%	4%	14%	2%	8%	6%	5%	10%	10%	9%	24%	25%	12%	2%	28%
	5 年未満	65	37%	5%	2%	6%	3%	15%	17%	3%	6%	3%	14%	9%	14%	9%	12%	5%	9%	20%	22%	26%	18%
	5～10 年未満	33	42%	3%	6%	12%	6%	12%	12%	6%	12%	9%	9%	3%	9%	12%	21%	6%	3%	39%	21%	9%	21%
	10～20 年未満	55	42%	2%	2%	2%	2%	16%	9%	4%	20%	2%	5%	13%	7%	18%	4%	7%	9%	27%	22%	5%	27%
職業	20 年以上	213	40%	4%	3%	10%	3%	22%	15%	3%	9%	6%	12%	9%	7%	10%	10%	8%	22%	29%	15%	5%	19%
	正規の雇用者	177	37%	2%	2%	8%	6%	17%	10%	3%	20%	2%	9%	8%	6%	12%	12%	6%	18%	32%	16%	8%	19%
	非正規の雇用者	31	19%	6%	6%	13%	3%	32%	10%	0%	23%	19%	10%	10%	10%	19%	10%	19%	26%	26%	16%	0%	10%
	パートやアルバイト	66	47%	2%	3%	8%	3%	18%	9%	8%	11%	2%	15%	9%	6%	5%	8%	6%	20%	27%	11%	6%	29%
	自営業主	31	41%	6%	10%	6%	3%	13%	16%	6%	3%	3%	6%	13%	0%	10%	18%	18%	15%	15%	18%	9%	26%
	主婦	97	52%	2%	0%	11%	1%	10%	11%	3%	5%	4%	8%	4%	7%	8%	7%	3%	16%	22%	18%	7%	33%
家族構成	学生	24	25%	8%	4%	8%	4%	25%	42%	8%	13%	4%	21%	8%	25%	17%	4%	4%	17%	29%	17%	25%	8%
	無職(主婦、学生以外)	83	46%	6%	5%	10%	1%	18%	17%	0%	1%	5%	10%	6%	8%	11%	12%	12%	17%	29%	17%	1%	23%
	単身	78	45%	4%	1%	1%	4%	15%	12%	0%	17%	3%	9%	10%	8%	15%	13%	5%	12%	27%	17%	15%	24%
	夫婦だけ	118	49%	2%	3%	8%	2%	12%	12%	2%	7%	4%	9%	10%	4%	7%	10%	8%	19%	24%	20%	5%	23%
	親と20 歳未満の子	136	34%	4%	3%	10%	7%	21%	11%	8%	10%	6%	11%	7%	9%	13%	11%	10%	17%	21%	20%	10%	21%
	親と20 歳以上の子	146	41%	3%	3%	11%	1%	18%	17%	3%	14%	3%	10%	5%	6%	12%	10%	9%	20%	34%	12%	2%	21%
住居種別	親と子と孫	28	32%	4%	7%	14%	7%	21%	11%	4%	21%	7%	11%	18%	11%	7%	7%	7%	32%	32%	4%	4%	21%
	持ち家(一戸建)	233	37%	6%	4%	14%	3%	26%	16%	4%	12%	6%	11%	11%	7%	9%	9%	8%	25%	29%	12%	3%	23%
	持ち家(マンションなど)	98	51%	1%	2%	7%	4%	4%	10%	3%	8%	5%	7%	1%	7%	10%	13%	10%	13%	28%	28%	2%	18%
	民間賃貸	123	43%	3%	1%	6%	2%	23%	14%	7%	7%	1%	13%	11%	6%	12%	13%	7%	12%	24%	16%	15%	26%
居住希望地	公営・公社・UR 賃貸	38	42%	0%	0%	5%	0%	16%	8%	3%	11%	3%	13%	0%	5%	8%	11%	5%	13%	24%	24%	8%	24%
	街なか	231	42%	3%	3%	8%	3%	15%	12%	4%	9%	3%	9%	9%	5%	10%	14%	11%	16%	25%	25%	6%	16%
	郊外の住宅地	176	32%	6%	4%	13%	4%	23%	17%	5%	17%	6%	14%	9%	10%	14%	9%	4%	24%	32%	10%	9%	21%
	農山村地域やリゾート地	30	40%	3%	3%	7%	3%	17%	13%	3%	3%	3%	10%	10%	10%	20%	7%	7%	13%	40%	3%	3%	30%
都心居住意向	特にこだわらない	75	60%	1%	1%	4%	4%	11%	9%	0%	11%	4%	5%	4%	5%	3%	4%	8%	13%	16%	12%	8%	43%
	現在、都心に住んでいる	38	45%	0%	0%	3%	3%	8%	3%	3%	8%	5%	8%	8%	8%	21%	21%	3%	8%	21%	42%	5%	18%
	早い時期に、移り住みたい	31	13%	13%	6%	16%	3%	45%	32%	6%	13%	3%	6%	13%	3%	16%	10%	26%	13%	29%	0%	19%	13%
	高齡になって移り住みたい	104	29%	3%	4%	14%	3%	21%	14%	6%	11%	8%	14%	10%	11%	9%	12%	6%	33%	30%	13%	4%	14%
	若いうちに一時期住みたい	46	35%	2%	0%	2%	4%	24%	9%	2%	17%	7%	11%	4%	7%	13%	15%	2%	24%	39%	7%	17%	11%
	住んでみたいとは思わない	181	44%	4%	3%	12%	3%	15%	13%	2%	11%	3%	9%	9%	7%	10%	8%	6%	15%	29%	17%	6%	27%

※: 回答が「不明」、「その他」など一部の項目を除いて表記しているため、横計は 100% とならない(以下同様)

2 住みたい場所

(1) 居住希望地

「もし、仮に、住み替えることになった場合、あなたが選びたいのはどのような立地条件の場所ですか」という設問に対し、「街なか⁽¹⁾ (44.4%)」が最も多く、「郊外の住宅地 (33.8%)」を上回った。

性別では、女性の方が「街なか」が多く、「農山村地域やリゾート地」は男性の方がやや多い。

年齢別では、子育て世代の30歳代を除く各年齢層において、「街なか」が「郊外の住宅地」を上回る。そのうち、最も街なか指向が強いのは50歳代である。

行政区別では、小倉南区と若松区を除く5区で「街なか」が「郊外の住宅地」を上回る。なかでも戸畑区と小倉北区で街なか指向が高い。

市内居住歴別では、生まれたときから住んでいる人の方が居住歴の短い人に比べて「特にこだわらない」という回答の割合がかなり大きく、選択の幅が広いことがうかがわれる。

職業別では自営業主や無職、家族構成別では夫婦だけの世帯の街なか指向が強い。定年退職や子どもの自立にともない、中高年の街なか指向が高まっていることがうかがわれる。

住居の種類別では、持ち家のマンション居住者の街なか指向がかなり高い。

さらに、「あなたが選んだ場所は、現在あなたが住んでいる場所と同じような、またはそれに近いような立地条件の場所ですか」という設問に対し、街なか指向、郊外指向のいずれも、『あてはまる』が約7割を占め、現住地と同様の立地条件を望む傾向がみられる。なかでも、街なか指向の方が、現住地との類似性の高い場所を望む傾向にある。

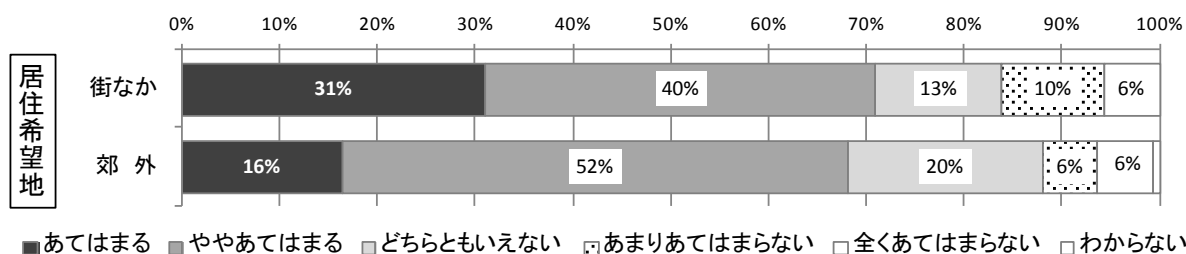


図1 居住希望地と現住地の類似性

(2) 都心居住意向

① 都心居住希望

北九州市全体では人口減少が続くなかで、住む場所として「都心」を選ぶ人が増えているが⁽²⁾、「あなたは「都心⁽³⁾」に住んでみたいと思いますか」という設問に対し、「住んでみたい (34.8%)」、と「現在も、これから先も住んでみたいとは思わない (34.8%)」は、ほぼ同数である。移り住みたいという人と既に都心に「住んでいる (7.3%)」人を合わせると、4割以上が都心での暮らしにメリットを感じているといえる。

性別では、女性の方が『住んでみたい』が多く、また、年齢別では20歳代と50歳代で多い。

行政区別では、若松区と八幡東区で『住んでみたい』が多く、一方、門司区、八幡西区では『住んでみたいとは思わない』が多い。また、小倉南区と戸畑区は、『住んでみたい』と『住んでみたいとは思わない』が、ほぼ半々である。

市内居住歴別では、生まれたときから住んでいる人では『住んでみたいとは思わない』が多

いが、その他では、居住歴の長短に関わらず『住んでみたい』が多い。

職業別では、非正規の雇用者や学生で『住んでみたい』の割合が比較的大きい。

家族構成別では、単身者や20歳以上の子がいる世帯で『住んでみたい』、一方、家族数が多い3世代世帯や20歳未満の子がいる2世代世帯で『住んでみたいとは思わない』の割合が比較的大きい。

住居の種類別では、持ち家の一戸建居住者で『住んでみたいとは思わない』がやや多いが、それ以外では『住んでいる・住んでみたい』の方が多い。

居住希望地別では、街なか居住希望者で『住んでいる・住んでみたい』が多いが、郊外居住希望者でも3割が都心に『住んでみたい』と回答しており、「街なか」でも都心を別格視する意識があることがうかがわれる。

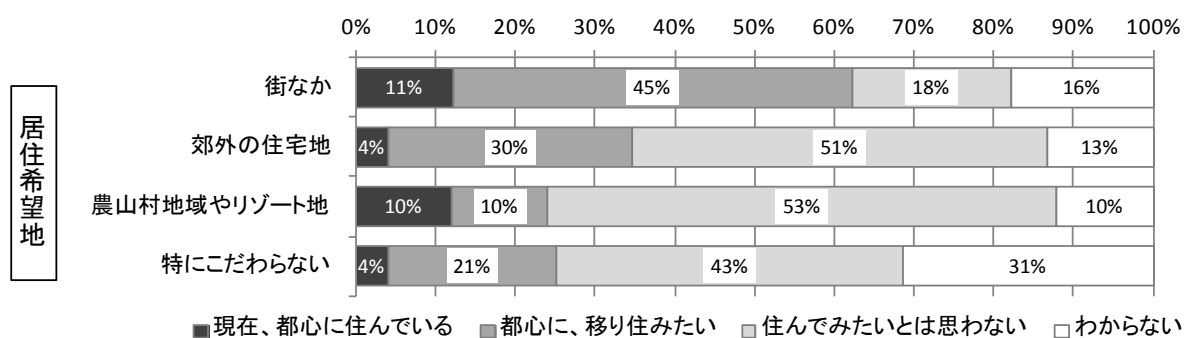


図2 居住希望地と都心居住意向

②移住時期

都心に『住んでみたい』という人について、いつ、どのような移住を望んでいるのかをみていくと、「高齢になって現在の住宅が住み難くなったときに移り住みたい（48.4%）」が約半分を占め、次いで、「できれば若いうちに、一時期でも住んでみたい（21.4%）」が多い。「できれば早い時期に、長く住み続ける場として移り住みたい（14.4%）」の順となっている。

性別では、『高齢になって』は男性の方が、『若いうち』は女性の方がやや多い。

年齢別では、50歳代、60歳代で『高齢になって』、20歳代、30歳代で『若いうち』が多い。また、『早い時期』の割合が比較的大きいのは、30歳代、40歳代である。

行政区別では、若松区、門司区で『高齢になって』、戸畑区、八幡東区で『若いうち』の割合が比較的大きい。『早い時期』の割合が比較的大きいのは、若松区、小倉南区である。

市内居住歴別では、居住歴20年以上と生まれたときから住んでいる人で『高齢になって』が多く、居住歴5年未満で『若いうち』が多い。

職業別では、自営業主や主婦で『高齢になって』、非正規雇用者や学生で『若いうち』が多い。『早い時期』の割合が比較的大きいのは自営業主や無職である。

家族構成別では、夫婦だけの世帯で『高齢になって』が多く、単身世帯で『若いうち』が多い。『早い時期』の割合が比較的大きいのは単身世帯である。

住居の種類別では、持ち家の一戸建居住者で『高齢になって』、民間賃貸住宅居住者で『若いうち』が多い。『早い時期』の割合が比較的大きいのは公的賃貸住宅の居住者である。

居住希望地別では、郊外希望者は『早い時期』は少ないが、『高齢になって』、または『若いうち』の割合は、街なか居住希望者よりも大きい。

表3 住みたい場所

回答率が高い順に

1

2

		標本数	(1)居住希望地				(2)都心居住意向									
			街なか	郊外の住宅地	農山村地域やリゾート地	特にこだわらない	①都心居住希望				②移住時期					
							現在、都心に住んでいる	都心に、移り住みたい	住んでいる・住みたい計	住んでみたいとは思わない	わからない	標本数（住んでみたい）	続けられる場として移り住みたい	できれば早い時期に、長く住み続けられる	高年齢になって現在の住宅に住み続けられなくなるときに移り住みたい	も住んでみたい
全体		520	44%	34%	6%	14%	7%	35%	42%	35%	17%	181	14%	48%	21%	16%
性別	男	260	41%	34%	8%	16%	8%	33%	41%	39%	15%	85	15%	50%	20%	15%
	女	260	48%	34%	3%	13%	7%	37%	44%	31%	18%	96	14%	47%	23%	17%
年齢	20～29 歳	104	42%	40%	5%	13%	5%	41%	46%	26%	20%	43	10%	25%	49%	16%
	30～39 歳	104	35%	43%	3%	18%	11%	29%	40%	39%	17%	30	24%	29%	35%	12%
	40～49 歳	104	45%	35%	6%	12%	7%	33%	40%	41%	14%	34	18%	54%	15%	13%
	50～59 歳	104	52%	28%	6%	12%	9%	40%	49%	26%	18%	42	12%	71%	2%	14%
	60～69 歳	104	48%	23%	10%	18%	6%	31%	37%	41%	13%	32	12%	60%	5%	24%
行政区	門司区	49	45%	27%	2%	24%	0%	33%	33%	41%	20%	16	5%	58%	21%	16%
	小倉北区	134	57%	22%	7%	13%	28%	19%	47%	16%	18%	26	16%	29%	6%	49%
	小倉南区	93	27%	53%	5%	14%	0%	41%	41%	42%	15%	38	18%	55%	23%	5%
	若松区	44	34%	41%	9%	16%	0%	43%	43%	41%	16%	19	21%	74%	5%	0%
	八幡東区	26	46%	38%	0%	8%	0%	65%	65%	15%	19%	17	12%	53%	35%	0%
	八幡西区	143	43%	34%	6%	16%	0%	38%	38%	48%	12%	55	14%	53%	30%	4%
市内居住歴	戸畑区	31	61%	26%	10%	3%	0%	32%	32%	32%	29%	10	8%	25%	50%	17%
	生まれたときから	154	38%	29%	7%	23%	5%	28%	33%	40%	21%	43	13%	53%	15%	19%
	5 年未満	65	42%	42%	9%	8%	12%	38%	50%	32%	14%	25	11%	30%	52%	7%
	5～10 年未満	33	36%	52%	0%	9%	15%	30%	45%	27%	12%	10	20%	20%	27%	33%
	10～20 年未満	55	53%	33%	2%	13%	9%	40%	49%	24%	16%	22	18%	32%	29%	21%
	20 年以上	213	49%	32%	6%	12%	6%	38%	44%	36%	15%	81	14%	61%	13%	12%
職業	正規の雇用者	177	44%	36%	6%	15%	11%	33%	44%	33%	16%	59	13%	52%	18%	17%
	非正規の雇用者	31	32%	39%	10%	19%	6%	45%	51%	26%	16%	14	13%	31%	44%	13%
	パートやアルバイト	66	39%	39%	3%	17%	3%	36%	39%	32%	21%	24	10%	48%	24%	17%
	自営業主	34	62%	21%	9%	9%	9%	38%	47%	32%	12%	13	25%	56%	0%	19%
	主婦	97	44%	37%	4%	14%	7%	30%	37%	36%	19%	29	11%	59%	8%	22%
	学生	24	50%	38%	8%	4%	0%	50%	50%	25%	21%	12	8%	8%	77%	8%
家族構成	無職(主婦、学生以外)	83	46%	25%	7%	16%	4%	33%	37%	47%	13%	27	23%	47%	20%	10%
	単身	78	45%	31%	6%	17%	10%	38%	48%	27%	19%	30	24%	21%	44%	12%
	夫婦だけ	118	52%	26%	8%	12%	11%	34%	45%	31%	17%	40	6%	57%	18%	18%
	親と20 歳未満の子	136	40%	40%	7%	14%	8%	29%	37%	40%	14%	40	14%	53%	12%	22%
	親と20 歳以上の子	146	45%	35%	3%	14%	3%	42%	45%	32%	17%	61	17%	52%	19%	12%
	親と子と孫	28	36%	36%	7%	21%	0%	32%	32%	46%	14%	9	9%	45%	27%	18%
住居種別	持ち家(一戸建)	233	41%	35%	8%	13%	2%	39%	41%	42%	11%	92	13%	60%	14%	12%
	持ち家(マンションなど)	98	60%	24%	4%	11%	16%	23%	39%	31%	17%	23	11%	43%	11%	34%
	民間賃貸	136	39%	35%	6%	19%	11%	33%	44%	29%	24%	45	12%	30%	48%	10%
	公営・公社・UR 賃貸	38	47%	37%	0%	16%	8%	39%	47%	21%	21%	15	26%	42%	11%	21%
居住希望地	街なか	231	100%	—	—	—	11%	45%	56%	18%	16%	105	17%	48%	16%	18%
	郊外の住宅地	176	—	100%	—	—	4%	30%	34%	51%	13%	53	11%	51%	32%	7%
	農山村地域やリゾート地	30	—	—	100%	—	10%	10%	20%	53%	10%	3	0%	25%	13%	63%
	特にこだわらない	75	—	—	—	100%	4%	21%	25%	43%	31%	16	12%	53%	29%	6%
都心居住意向	現在、都心に住んでいる	38	66%	18%	8%	8%	100%	—	100%	—	—	0	—	—	—	—
	早い時期に、移り住みたい	31	71%	19%	0%	6%	—	100%	100%	—	—	31	100%	—	—	—
	高齢になって移り住みたい	104	60%	28%	2%	9%	—	100%	100%	—	—	104	—	100%	—	—
	若いうちに一時期住みたい	46	46%	39%	2%	11%	—	100%	100%	—	—	46	—	—	100%	—
	住んでみたいとは思わない	181	23%	49%	9%	18%	—	—	—	100%	3%	0	—	—	—	—

3 住みたい住宅

(1) 居住希望住宅（所有関係・建て方）

「もし、仮に、住み替えることになった場合、あなたが選びたいのはどのような住宅ですか。」という設問に対し、「持ち家（一戸建）（42.5%）」が最も多く、次いで、「持ち家（マンションなど）（19.4%）」、「民間賃貸住宅（マンション、アパートなど）（17.1%）」の順に多い。

性別では、男女とも「持ち家（一戸建）」が最も多いが、一戸建指向は男性の方が、一方、マンション指向は女性の方が強い。

年齢別では、20歳代、30歳代に比べて40歳代以上の方が持ち家のマンション指向が強い。また、年齢層が高いほど民間賃貸住宅希望者は少ないが、逆に公的賃貸住宅は希望者が増える。

行政区別では、若松区と八幡東区で持ち家マンションが、小倉北区と戸畑区で民間賃貸の割合が比較的大きい。

市内居住歴別では、居住歴5年未満では民間賃貸住宅が最も多いが、5～10年未満になると持ち家の一戸建が過半数を占める。

職業別では、自営業主や主婦で、持ち家のマンション指向が比較的高い。

家族構成別では、単身世帯は民間賃貸住宅が最も多く約4割を占める。一方、持ち家の戸建指向が最も強いのは、20歳未満の子がいる2世代世帯である。

住居の種類別では、現在住んでいる住宅と同様の住宅を希望する傾向がみられる。持ち家のマンション居住者は、住み替えても現住居と同様にマンションを選びたいという人が多い。ただし、民間賃貸住宅の居住者は、持ち家のマンション居住者に比べて一戸建指向が強く、集合住宅に住むのであれば、現住居のような賃貸の方がよいと思っている人が多い。

居住希望地別では、郊外居住希望者の方がやはり一戸建指向が強いが、街なか居住希望者でも約3割が一戸建を希望している。

都心居住意向別では、早い時期に移り住みたいという人や高齢期になって移り住みたいという人では持ち家のマンション、また、一時期住みたいという人では民間賃貸住宅が多い。

(2) 購入希望住宅（新築・中古）

「家を買うことになったら、中古住宅も検討の対象にしますか」という設問に対し、「新築を優先するが、中古住宅も検討したい（46.3%）」が最も多く、次いで、「手に入れやすい中古住宅を優先的に検討したい（24.2%）」、「中古住宅には抵抗があるので新築だけを検討したい（15.8%）」という順である。

一戸建を買いたい人もマンションを買いたい人も、ほぼ同様の結果であり、マンション購入希望者の方が、『中古優先』の割合がやや大きい。

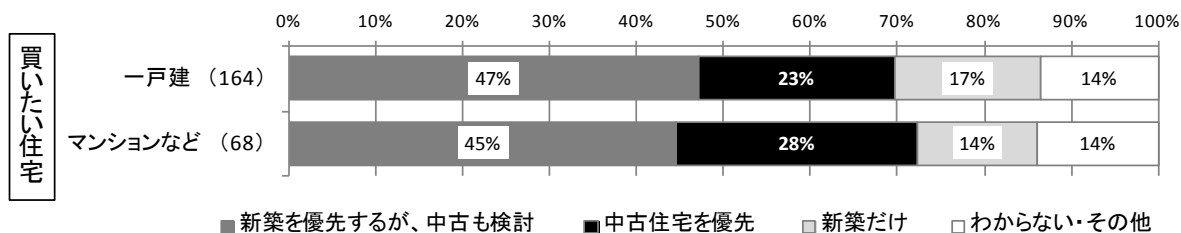


図3 買いたい住宅の種類別にみた新築、中古の優先度

性別では、『中古優先』は男性の方が多く、『新築だけ』は女性の方が多い。

年齢別では、40 歳代、60 歳代で『中古優先』、20 歳代、30 歳代で『新築だけ』の割合が比較的大きい。

表 4 住みたい住宅

回答率が高い順に

1

2

		(1)居住希望住宅(所有関係・建て方)								(2)購入希望住宅(新築・中古)				
		標本数	持ち家(一戸建)	持ち家(マンションなど)	民間賃貸住宅(一戸建)	民間賃貸住宅(マンション、アパートなど)	公営・公社・URの賃貸住宅	勤め先の給与住宅(社宅や官舎など)	わからない	標本数	中古新築を優先するが、中古住宅も検討した	中古新築を優先するが、中古住宅も検討した	中古新築を優先するが、中古住宅も検討した	わからない
全体		520	43%	19%	3%	17%	5%	0%	13%	322	46%	24%	16%	12%
性別	男	270	49%	14%	3%	17%	5%	1%	11%	164	48%	27%	12%	12%
	女	270	36%	25%	2%	17%	5%	0%	14%	158	45%	21%	20%	12%
年齢	20～29 歳	104	42%	14%	2%	30%	3%	0%	9%	59	56%	17%	20%	7%
	30～39 歳	104	45%	10%	1%	25%	2%	0%	16%	57	56%	14%	21%	9%
	40～49 歳	104	46%	25%	4%	11%	2%	1%	12%	74	42%	34%	11%	12%
	50～59 歳	104	37%	25%	1%	15%	9%	1%	13%	64	44%	17%	14%	19%
	60～69 歳	104	42%	23%	5%	5%	10%	0%	14%	68	37%	35%	15%	12%
行政区	門司区	49	39%	20%	4%	12%	4%	0%	18%	29	41%	24%	17%	17%
	小倉北区	134	41%	21%	1%	21%	5%	1%	10%	83	45%	23%	17%	11%
	小倉南区	93	46%	15%	9%	15%	6%	0%	9%	57	51%	28%	12%	9%
	若松区	44	34%	32%	2%	14%	7%	0%	11%	29	41%	24%	17%	17%
	八幡東区	26	19%	31%	0%	19%	12%	0%	19%	13	54%	31%	8%	8%
	八幡西区	143	49%	16%	1%	16%	2%	1%	15%	93	47%	22%	18%	12%
市内居住歴	戸畑区	31	45%	13%	0%	23%	6%	0%	13%	18	44%	28%	11%	11%
	生まれるときから	154	42%	19%	1%	14%	5%	1%	17%	95	44%	26%	16%	13%
	5 年未満	65	38%	18%	0%	40%	2%	0%	2%	37	54%	24%	14%	8%
	5～10 年未満	33	52%	15%	0%	18%	3%	0%	12%	22	36%	23%	23%	5%
	10～20 年未満	55	45%	18%	4%	18%	2%	0%	13%	35	51%	17%	11%	17%
	20 年以上	213	42%	21%	4%	12%	7%	0%	13%	133	46%	25%	17%	12%
職業	正規の雇用者	177	53%	16%	3%	16%	3%	1%	8%	122	48%	23%	18%	11%
	非正規の雇用者	31	52%	19%	0%	13%	0%	0%	16%	22	55%	32%	5%	9%
	パートやアルバイト	66	24%	20%	2%	21%	14%	0%	20%	29	52%	21%	7%	21%
	自営業主	31	32%	26%	3%	24%	3%	0%	12%	20	40%	40%	10%	10%
	主婦	97	43%	24%	2%	14%	0%	0%	16%	65	48%	22%	20%	9%
	学生	24	29%	17%	0%	42%	0%	0%	13%	11	64%	9%	9%	18%
	無職(主婦、学生以外)	83	40%	17%	4%	12%	13%	0%	13%	47	34%	28%	21%	11%
家族構成	単身	78	27%	17%	1%	38%	5%	0%	12%	34	47%	32%	9%	12%
	夫婦だけ	118	47%	24%	2%	12%	4%	0%	11%	83	34%	25%	23%	13%
	親と 20 歳未満の子	136	58%	15%	4%	9%	3%	1%	10%	100	53%	23%	17%	5%
	親と 20 歳以上の子	146	32%	21%	3%	17%	8%	0%	18%	77	52%	22%	12%	14%
	親と子と孫	28	50%	25%	0%	11%	4%	4%	7%	21	43%	24%	10%	24%
住居種別	持ち家(一戸建)	233	53%	17%	2%	12%	4%	0%	11%	164	47%	23%	16%	13%
	持ち家(マンションなど)	98	27%	43%	1%	6%	6%	0%	17%	68	47%	21%	15%	13%
	民間賃貸	123	38%	10%	4%	37%	2%	1%	9%	64	47%	30%	11%	11%
	公営・公社・UR 賃貸	38	29%	8%	5%	13%	21%	0%	24%	14	36%	43%	21%	0%
居住希望地	街なか	231	32%	29%	2%	19%	6%	0%	12%	142	49%	20%	17%	11%
	郊外の住宅地	176	52%	12%	3%	20%	3%	1%	9%	113	49%	23%	19%	9%
	農山村地域やリゾート地	30	70%	7%	7%	7%	7%	0%	3%	23	39%	48%	4%	9%
	特にこだわらない	75	43%	11%	3%	12%	7%	0%	24%	40	38%	30%	8%	25%
都心居住意向	現在、都心に住んでいる	38	37%	34%	0%	26%	0%	0%	3%	27	52%	11%	19%	11%
	早い時期に、移り住みたい	31	19%	35%	3%	19%	13%	0%	10%	17	53%	29%	6%	12%
	高齢になって移り住みたい	104	28%	34%	2%	18%	10%	0%	9%	64	53%	22%	17%	8%
	若いうちに一時期住みたい	46	30%	13%	0%	46%	2%	0%	7%	20	50%	25%	10%	15%
住んでみたいとは思わない		181	60%	9%	3%	12%	2%	1%	12%	126	45%	27%	18%	10%

行政区別では、小倉南区、八幡東区、戸畑区で、『中古優先』の割合が比較的大きい。

市内居住歴別では、持ち家の一戸建指向が強まる居住歴 5～10 年未満で、『新築だけ』の割合が比較的大きい。

職業別では自営業主や非正規雇用者や無職、また、家族構成別では単身世帯、さらに、現住居の種類別では賃貸住宅居住者で、『中古優先』の割合が比較的大きい。

居住希望地別では、農山村地域やリゾート地の希望者や特にこだわらないという人で、『中古優先』の割合が比較的大きい。

都心居住意向別では、早い時期に移り住みたいという人で、『中古優先』の割合が比較的大きく、『新築だけ』の割合は小さい。

4 利用したい交通手段

(1) 日頃利用する交通手段

①通勤・通学

「通勤・通学に利用している交通手段はどれか（複数回答）」という設問に対し、「自家用車（54.6%）」が最も多く、次いで、「鉄道（22.7%）」、「乗合バス（19.4%）」、「徒歩のみ（16.6%）」の順となっている。自動車のみ（会社の車やタクシーを含む）を利用し、公共交通を利用しない人が 44.0% を占める。

性別では、男性の方が「自家用車」が多く、女性の方が「公共交通」の利用度が高い。また、「徒歩のみ」も女性の方が多く、女性の方が職住近接傾向にある。

年齢別では、20 歳代は「鉄道」、「徒歩のみ」が比較的多いが、30 歳代以上になると「自家用車」が大きく増加する。

行政区別では、若松区で「自家用車」の利用度が特に高い。公共交通では、門司区と小倉北区は「乗合バス」、小倉南区、八幡東区、八幡西区は「鉄道」の利用度が、他の区に比較して高い。また、「自転車」の利用度が比較的高のは小倉北区である。

市内居住歴別では、居住歴 10 年未満で「自転車」の利用度が比較的高い。

職業別では、正規雇用者や自営業主は「自家用車」、一方、主婦や学生では「鉄道」の利用度が比較的高い。また、パートやアルバイト、学生では「徒歩のみ」の割合も大きい。

家族構成別では単身世帯、住居の種類別では持ち家のマンション居住者、また、居住希望地別では街なか居住希望者で、「自家用車」の利用度が比較的低い。

都心居住意向別では、都心に移り住みたいという人は、「鉄道」、「乗合バス」の利用度が比較的高い。また、都心居住者では「自家用車」と並んで「徒歩のみ」が最も多い。

②買い物・レジャー

「買い物、レジャーなどの場合に利用する交通手段はどれですか（複数回答）」という設問に対し、「自家用車（75.6%）」が最も多く、次いで、通勤・通学と同様に「鉄道（31.9%）」、「乗合バス（28.8%）」、「徒歩のみ（17.5%）」、「自転車（13.7%）」の順となっている。自動車のみを利用し公共交通を利用しない人が通勤・通学と同様に 44% を占める。通勤・通学に比べて買い物・レジャーは交通手段の選択の幅が広く、公共交通を利用することがある人の割合も通勤・通学より増える。しかし、自家用車の利用度は公共交通をかなり上回り、通勤・通学よりもマイカー依存度は高い。

属性別の傾向は通勤・通学の場合と大きな相違は無いが、通勤・通学では自家用車の利用度が比較的低い傾向にある女性や20歳代、都心居住者などでも、買い物・レジャーではマイカーの利用度が大きく高まる。

③公共交通を利用しない理由

通勤・通学や買い物・レジャーに自動車等（タクシーや会社の車を含む）だけを利用する人に対し、「鉄道やバスを利用しないのはなぜか（複数回答）」とたずねたところ（図4）、最も多いのは「自動車の方が、目的地まで乗り換えせずに直接移動できるので便利だから」、次いで多いのは「自動車の方が快適だから」であり、通勤・通学ではこの2つの理由が他を大きく上回っている。買い物・レジャーでは、「荷物がたくさんあるから」が、3番目の大きな理由である。マイカーの利便性や快適性が高く評価されており、公共交通が不便だからマイカーに依存せざるを得ないといった理由はさほど多くない。

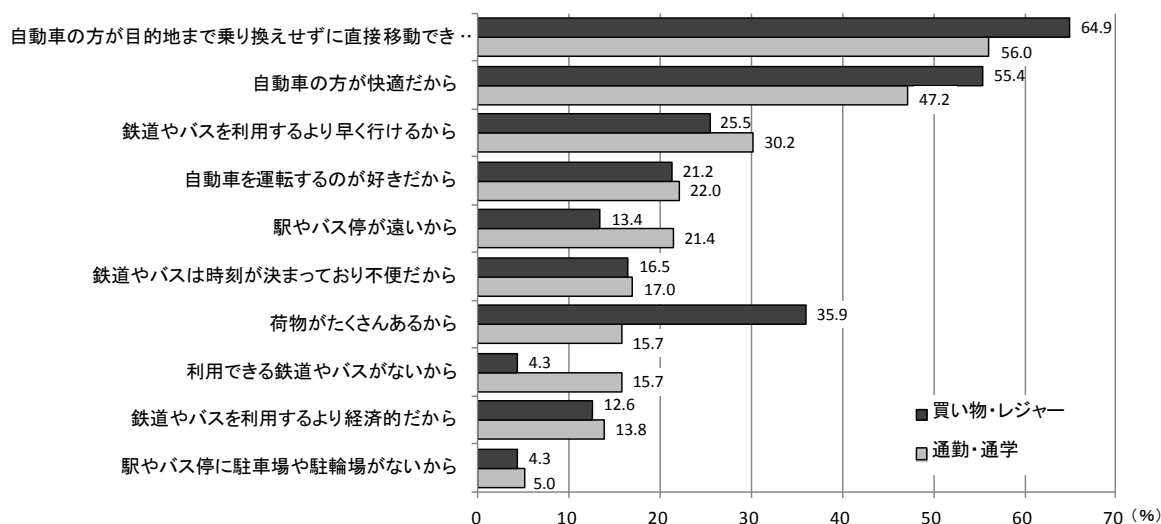


図4 自家用車のみを利用する理由

(2) 公共交通利用意向

「交通機関が使えるとき、あなたは移動手段として、公共交通機関と自家用車のどちらを選びますか」という設問に対し、最も多いのは、「今は自家用車を利用することが多く、今後も自家用車を使いたい（35.4%）」であり、自家用車利用を望む人が多い。しかし、今は自家用車を利用することが多い人のうち約4割が「今後はできるだけ公共交通機関を使いたい（24.8%）」という意向を持っている。一方、今は公共交通を使うことが多い人のうち8割以上が「今後もできるだけ公共交通機関を使いたい（25.2%）」と考えており、「今後は自家用車を使いたい（4.4%）」という人は少ない。以上のように、今後の利用意向は、自家用車が約4割に対し公共交通は約5割であり、公共交通の利用意向の方がやや強い（図5）。

性別では女性、年齢別では40歳代以上で、公共交通の利用意向が比較的強い。

行政区別では、八幡西区を除く各区で自家用車よりも公共交通が多く、なかでも、八幡東区、小倉北区、戸畑区で、公共交通の利用意向が強い。

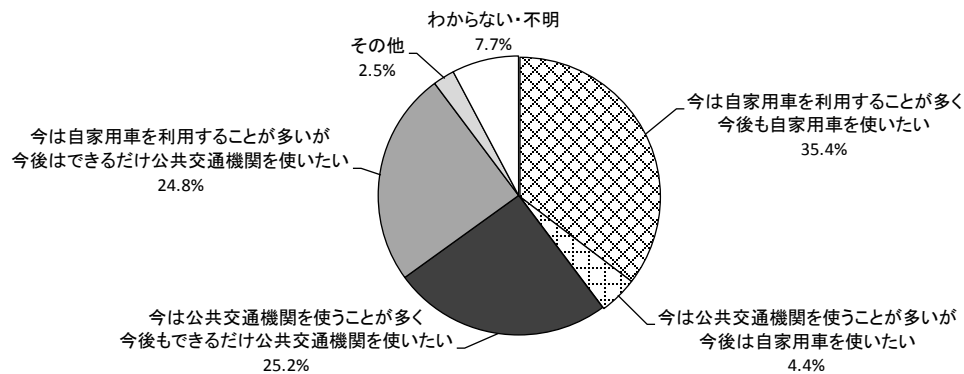


図5 利用したい交通手段

職業別では、正規雇用者、非正規雇用者は自家用車、それ以外は公共交通が多い。

家族構成別では、20歳未満の子がいる2世代世帯や3世代世帯では自家用車と公共交通が半々であり、それ以外では公共交通の方が多く、なかでも単身世帯は公共交通の利用意向が強い。

住居の種類別では、持ち家のマンション居住者や公的賃貸住宅の居住者で公共交通が多い。

居住希望地別では、郊外居住希望者は自家用車が多いが、その他は公共交通が多い。

都心居住意向別では、現在、都心に住んでいる人や早い時期に移り住みたいという人で、公共交通が多く、一方、都心に住んでみたいと思わない人では自家用車の人が多い。

5 望ましいまちづくり

(1) 歩いて暮らせるまちづくり

① 歩いて暮らせるまちづくりのメリット

「自動車に依存し過ぎない歩いて暮らせるまちづくりを推進することについて、あなたはどのようなメリットがあると思いますか（複数回答）」という設問に対し、最も多いのは「高齢者などの自動車を利用できない人も生活しやすい環境になる（61.0%）」、次いで「自動車の利用による環境への影響を減らすことができる（47.9%）」、「自動車との事故が減り、安全・快適に歩いたり、自転車を使えるまちになる（43.5%）」が多く、この3つが大きな理由である。次いで、多い順に「地域のコミュニティが維持されやすくなる（22.9%）」、「コンパクトに集約されたまちは、公共施設の維持管理、福祉施策などの財政負担が軽減する（18.3%）」、「中心市街地の活性化につながる（17.3%）」、「郊外の開発を行わなくてすむ（8.3%）」となっている。「特にメリットはない（7.3%）」という回答もあるが、大多数の人が歩いて暮らせるまちづくりの必要性を感じている。

性別では、女性の方がメリットを感じている人が多いが、『財政負担軽減』、『郊外開発抑制』、『コミュニティ維持』に関しては男性の方が多い。

年齢別では、年齢が高いほど、『高齢者の生活』、『コミュニティ維持』、『郊外開発抑制』の割合が大きい。

行政区別では、門司区で『交通事故減少』、小倉南区で『財政負担軽減』、若松区で『郊外開発抑制』、八幡東区と戸畑区で『コミュニティ維持』、八幡西区で『中心市街地活性化』、『コミュニティ維持』の割合が、他の区と比べて大きい。

表5 利用したい交通手段

回答率が高い順に 1 2

		(1) 日頃利用する交通手段																	(2) 公共交通利 用意向	
		標 本 数	通勤・通学(複数回答)								買い物・レジャー(複数回答)									
			通 勤 ・ 通 学 者	鉄 道 (JR・ 筑豊電 鉄・モノ レール)	乗 合 バ ス	自 家 用 車	オ ー ト バ イ	自 転 車	徒 歩 の み	自 動 車 の み ※	鉄 道 (JR・ 筑豊電 鉄・モノ レール)	乗 合 バ ス	自 家 用 車	オ ー ト バ イ	自 転 車	徒 歩 の み	自 動 車 の み ※			自 家 用 車 を 使 い た い
全体		520	361	23%	19%	55%	6%	10%	17%	44%	32%	29%	76%	4%	14%	18%	44%	40%	50%	7%
性別	男	270	206	20%	18%	60%	8%	8%	11%	50%	30%	23%	77%	7%	14%	14%	50%	44%	46%	6%
	女	270	155	26%	21%	48%	3%	14%	24%	37%	34%	35%	74%	2%	13%	21%	39%	35%	54%	7%
年齢	20～29 歳	104	87	37%	22%	44%	9%	21%	23%	30%	55%	32%	64%	6%	22%	19%	31%	50%	39%	7%
	30～39 歳	104	80	18%	18%	60%	6%	9%	18%	50%	33%	29%	78%	6%	12%	15%	46%	46%	42%	10%
	40～49 歳	104	78	18%	22%	56%	6%	6%	10%	46%	23%	27%	84%	5%	9%	13%	54%	40%	53%	4%
	50～59 歳	104	69	22%	14%	57%	4%	4%	19%	49%	28%	26%	73%	3%	11%	15%	46%	33%	55%	7%
	60～69 歳	104	47	15%	21%	60%	2%	9%	11%	49%	21%	31%	79%	3%	15%	24%	45%	30%	61%	6%
行政区	門司区	49	36	22%	28%	42%	11%	0%	22%	33%	20%	22%	80%	4%	8%	12%	57%	45%	47%	6%
	小倉北区	134	104	16%	23%	43%	11%	18%	20%	29%	27%	38%	70%	7%	20%	21%	37%	32%	57%	5%
	小倉南区	93	60	32%	10%	68%	5%	8%	10%	53%	44%	25%	69%	2%	17%	16%	38%	42%	46%	9%
	若松区	44	27	15%	15%	70%	0%	7%	4%	67%	25%	18%	89%	0%	5%	11%	64%	43%	50%	5%
	八幡東区	26	18	56%	22%	39%	6%	17%	17%	28%	38%	35%	62%	8%	23%	23%	27%	23%	65%	8%
	八幡西区	143	93	24%	19%	61%	3%	6%	16%	53%	33%	27%	83%	5%	9%	17%	49%	45%	43%	8%
市内居住歴	戸畑区	31	23	9%	17%	57%	0%	9%	26%	57%	35%	32%	71%	0%	10%	19%	42%	42%	55%	0%
	生まれたときから	154	115	24%	18%	51%	6%	7%	17%	41%	32%	31%	73%	4%	11%	12%	44%	40%	46%	10%
	5 年未満	65	48	25%	19%	42%	10%	19%	23%	33%	51%	34%	57%	8%	20%	26%	29%	45%	51%	0%
	5～10 年未満	33	26	31%	23%	54%	12%	19%	19%	31%	42%	33%	70%	9%	27%	12%	27%	39%	48%	12%
	10～20 年未満	55	38	21%	26%	53%	3%	16%	16%	42%	31%	27%	82%	4%	16%	15%	47%	47%	44%	7%
	20 年以上	213	134	19%	18%	63%	4%	7%	14%	54%	25%	25%	83%	3%	11%	20%	51%	37%	54%	5%
職業	正規の雇用者	177	175	15%	17%	65%	6%	5%	10%	56%	25%	25%	86%	5%	8%	9%	57%	49%	44%	5%
	非正規の雇用者	31	31	29%	26%	39%	6%	6%	23%	32%	32%	29%	68%	6%	13%	10%	42%	52%	45%	3%
	パートやアルバイト	66	63	27%	25%	43%	6%	14%	30%	30%	36%	27%	74%	5%	14%	20%	41%	35%	55%	8%
	自営業主	31	20	25%	5%	60%	0%	10%	20%	50%	26%	18%	74%	3%	18%	15%	47%	38%	47%	9%
	主婦	97	24	33%	17%	58%	4%	13%	8%	38%	21%	30%	79%	2%	13%	25%	45%	35%	51%	8%
	学生	24	24	50%	25%	25%	13%	33%	33%	13%	88%	38%	38%	17%	33%	25%	8%	42%	58%	0%
家族構成	無職(主婦、学生以外)	83	21	19%	29%	52%	0%	19%	14%	43%	40%	37%	65%	1%	18%	25%	33%	29%	58%	8%
	単身	78	68	22%	22%	41%	7%	13%	25%	38%	44%	32%	50%	9%	24%	22%	32%	32%	58%	3%
	夫婦だけ	118	66	24%	26%	59%	5%	9%	18%	42%	31%	29%	81%	4%	15%	18%	43%	42%	51%	6%
	親と20 歳未満の子	136	100	18%	13%	61%	9%	10%	13%	44%	19%	21%	86%	4%	7%	15%	55%	44%	44%	10%
	親と20 歳以上の子	146	100	29%	21%	51%	5%	9%	13%	46%	41%	36%	72%	3%	14%	19%	38%	40%	50%	5%
住居種別	親と子と孫	28	20	20%	15%	75%	0%	5%	15%	65%	14%	14%	96%	0%	7%	7%	71%	46%	46%	7%
	持ち家(一戸建)	233	141	20%	22%	61%	3%	8%	11%	52%	29%	27%	82%	3%	13%	14%	48%	39%	49%	7%
	持ち家(マンションなど)	98	69	25%	13%	49%	7%	9%	19%	39%	31%	28%	77%	3%	9%	21%	42%	33%	60%	3%
	民間賃貸	123	111	23%	18%	51%	8%	13%	23%	40%	36%	29%	69%	7%	18%	18%	43%	43%	44%	9%
居住希望地	公営・公社・UR 賃貸	38	29	28%	31%	48%	10%	17%	14%	31%	37%	42%	61%	8%	13%	24%	34%	39%	58%	3%
	街なか	231	158	24%	17%	45%	7%	13%	19%	36%	35%	30%	75%	5%	16%	19%	42%	37%	55%	6%
	郊外の住宅地	176	131	27%	21%	64%	7%	8%	12%	50%	32%	26%	79%	5%	10%	14%	48%	49%	44%	3%
	農山村地域やリゾート地	30	22	9%	32%	45%	5%	9%	23%	41%	37%	43%	70%	3%	13%	23%	37%	23%	60%	10%
都心居住意向	特にこだわらない	75	48	15%	17%	65%	2%	8%	19%	56%	17%	24%	72%	1%	15%	16%	48%	37%	45%	12%
	現在、都心に住んでいる	38	27	11%	26%	33%	11%	19%	33%	19%	21%	34%	68%	5%	24%	32%	39%	21%	61%	8%
	早い時期に、移り住みたい	31	19	32%	26%	37%	11%	16%	5%	26%	52%	42%	61%	6%	26%	35%	19%	26%	65%	6%
	高齢になって移り住みたい	104	72	22%	24%	60%	6%	10%	18%	44%	26%	28%	83%	4%	11%	11%	53%	38%	54%	5%
	若いうちに一時期住みたい	46	39	41%	18%	54%	8%	15%	15%	38%	59%	41%	67%	9%	22%	22%	17%	37%	52%	11%
	住んでみたいとは思わない	181	116	18%	18%	61%	3%	6%	9%	57%	25%	23%	81%	3%	9%	14%	53%	49%	43%	6%

※：自家用車、会社や友人の車、タクシー

職業別では、非正規の雇用者やパート・アルバイトでメリットを感じる人の割合が多く、一方、自営業者ではメリットを感じない人の割合が比較的大きい。また、主婦と学生では『環境への影響減少』の割合が比較的大きい。

家族構成別では、20歳未満の子がいる2世代世帯で、メリットを感じる人の割合が大きく、『交通事故減少』の割合が比較的大きい。

居住希望地別では街なか居住希望者で『中心市街地活性化』の割合が比較的大きい。

都心居住意向別では、現在都心に住んでいる人、早い時期に移り住みたい人、高齢期になって移り住みたいという人で、『中心市街地活性化』の割合が比較的大きい。

②歩いて暮らせるまちづくりに必要な取り組み

「あなたは、よりいっそうまちを歩きやすくするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)」という設問に対し、「自動車が多い道路において、歩道を設置したり、歩道の幅を広げたりする(53.3%)」、「歩道の段差解消や、電柱の撤去などを進め、バリアフリーを進める(53.3%)」、「公共交通機関に乗りやすくして、歩いて出かけやすくする(51.0%)」、「自転車が危険なので、自転車の走る空間を分離する(49.8%)」、及び「照明など防犯のための施設整備を進める(49.2%)」が、ほぼ横並びで約半数を占める。歩いて暮らせるまちづくりに、安全・安心な歩行者環境整備とともに公共交通対策が重要と考えられている。次いで「駐車場や駐輪場を整備して、迷惑駐車や放置自転車をなくす(44.0%)」が多く、マナー改善の必要性に関する意識も比較的高いといえる。以下、「まちのにぎわいを高め、歩いて楽しいまちづくりを進める(30.8%)」、「住宅地などでは、自動車より歩行者優先の道路とする(25.4%)」、「買い物の際の荷物の宅配などのサービスを充実する(20.2%)」となっている。

性別では、女性の方が『自転車分離』、『防犯施設』、『宅配サービス』がやや多い。

年齢別では、『バリアフリー』は年齢が高い方が多いが、『歩道設置・拡幅』は年齢が若い方が多い。また、20歳代、30歳代では『公共交通改善』、50歳代、60歳代では『自転車分離』が比較的多い。

行政区別では、門司区で『防犯施設』、『歩行者優先』、小倉南区で『防犯施設』、若松区で『公共交通』、『宅配サービス』の割合が比較的大きい。戸畑区では『歩道設置・拡幅』、『バリアフリー』の割合が比較的小さい。

職業別では、非正規雇用者や自営業主で『バリアフリー』が多く、主婦では『にぎわい』、『防犯施設』が多い。

家族構成別では、単身世帯は『公共交通』が多く、夫婦だけの世帯は『バリアフリー』、親と20歳以上の子がいる2世代世帯では『自転車分離』が多い。

住居の種類別では、持ち家のマンション居住者で『バリアフリー』、『自転車分離』、『防犯施設』、公的賃貸住宅の居住者で、『公共交通』、『宅配サービス』の割合が比較的大きい。

居住希望地別では、街なか居住希望者では『にぎわい』、『宅配サービス』、郊外居住希望者では『迷惑駐車対策』の割合が比較的大きい。

都心居住意向別では、早い時期に移り住みたいという人や高齢期になって移り住みたいという人では『公共交通』の割合が比較的大きい。また、都心に住んでいる人は、『歩道設置・拡幅』、『バリアフリー』、『自転車分離』の割合が大きい。

表6 望ましいまちづくり（その1）

回答率が高い順に

1

2

		(1)歩いて暮らせるまちづくり（複数回答）																				
		標本数	①歩いて暮らせるまちづくりのメリット										②歩いて暮らせるまちづくりに必要な取り組み									
			人も高齢者などの自動車を利用できない生活しやすい環境になる	自動車の利用による環境への影響を減らすことができる	中心市街地の活性化につながる	なる	地域のコミュニティが維持されやすくなる	自動車との事故が減り、安全・快適に歩いたり自転車を使えるまちになる	減する	コンパクトに集約されたまちは、公共施設の維持管理、福祉施策などの財政負担が軽減される	郊外の開発を行わなくてすむ	特にメリットはない	設置したり歩道の幅を広げたりする	自動車が歩道の幅を占めている	歩道の段差解消や、電柱の撤去などを進め、バリアフリー化を進める	優先の道路とする	住宅地などでは、自動車より歩行者の歩道の確保を進める	歩道の確保を進める	歩道の確保を進める	歩道の確保を進める	歩道の確保を進める	
全体		520	61%	48%	17%	23%	43%	18%	8%	7%	53%	53%	25%	50%	44%	51%	31%	49%	20%	2%		
性別	男	270	57%	45%	19%	25%	45%	24%	10%	10%	51%	53%	26%	47%	45%	52%	32%	47%	16%	2%		
	女	270	65%	50%	16%	21%	42%	13%	6%	5%	56%	53%	25%	52%	43%	50%	29%	52%	24%	2%		
年齢	20～29 歳	104	57%	53%	14%	15%	45%	14%	7%	8%	60%	50%	24%	48%	53%	54%	30%	46%	13%	1%		
	30～39 歳	104	61%	53%	20%	19%	44%	13%	5%	5%	59%	50%	25%	45%	43%	56%	38%	51%	21%	4%		
	40～49 歳	104	53%	43%	13%	25%	49%	19%	7%	9%	56%	55%	25%	50%	43%	45%	27%	53%	22%	3%		
	50～59 歳	104	66%	40%	16%	27%	38%	25%	11%	8%	49%	59%	25%	52%	38%	48%	30%	52%	26%	1%		
	60～69 歳	104	68%	50%	22%	28%	40%	20%	13%	8%	43%	53%	28%	54%	43%	52%	29%	44%	19%	3%		
行政区	門司区	49	59%	51%	14%	12%	57%	14%	2%	6%	59%	59%	37%	53%	41%	47%	20%	55%	16%	4%		
	小倉北区	134	57%	49%	19%	25%	43%	19%	9%	7%	58%	54%	27%	49%	44%	51%	31%	48%	17%	4%		
	小倉南区	93	54%	46%	9%	11%	45%	22%	6%	11%	58%	45%	19%	49%	44%	48%	29%	58%	16%	5%		
	若松区	44	70%	41%	18%	20%	27%	14%	14%	5%	45%	57%	20%	43%	48%	59%	32%	50%	32%	0%		
	八幡東区	26	65%	62%	15%	31%	50%	19%	8%	8%	38%	58%	31%	42%	38%	46%	23%	42%	23%	0%		
	八幡西区	143	68%	45%	23%	30%	43%	18%	10%	5%	53%	56%	26%	55%	44%	52%	35%	49%	22%	0%		
市内居住歴	戸畑区	31	52%	55%	13%	29%	39%	19%	6%	13%	32%	45%	19%	39%	48%	48%	35%	26%	26%	0%		
	生まれたときから	154	57%	48%	15%	23%	36%	15%	5%	8%	52%	55%	21%	43%	42%	42%	32%	49%	19%	3%		
	5 年未満	65	55%	48%	14%	20%	42%	14%	2%	6%	60%	49%	23%	42%	40%	54%	31%	43%	14%	5%		
	5～10 年未満	33	70%	42%	21%	24%	39%	15%	6%	12%	61%	45%	33%	58%	48%	42%	21%	52%	18%	0%		
	10～20 年未満	55	55%	47%	20%	22%	45%	18%	4%	9%	44%	49%	25%	55%	38%	58%	33%	53%	20%	0%		
	20 年以上	213	66%	49%	19%	24%	50%	23%	15%	6%	54%	55%	28%	55%	48%	56%	31%	50%	23%	2%		
職業	正規の雇用者	177	60%	46%	19%	22%	39%	20%	6%	8%	53%	54%	25%	46%	47%	52%	32%	49%	18%	2%		
	非正規の雇用者	31	71%	52%	26%	29%	45%	16%	16%	3%	55%	65%	32%	45%	35%	35%	16%	32%	16%	3%		
	パートやアルバイト	66	59%	47%	11%	29%	50%	18%	6%	3%	55%	48%	26%	53%	35%	45%	24%	47%	17%	3%		
	自営業主	31	56%	44%	15%	29%	47%	21%	12%	15%	50%	62%	18%	50%	44%	50%	41%	47%	18%	6%		
	主婦	97	61%	56%	16%	22%	43%	10%	5%	5%	55%	52%	23%	53%	46%	56%	26%	56%	26%	1%		
	学生	24	50%	54%	17%	13%	42%	21%	8%	8%	58%	46%	29%	46%	50%	54%	38%	38%	13%	4%		
家族構成	無職（主婦、学生以外）	83	64%	42%	19%	20%	46%	23%	14%	11%	53%	52%	29%	55%	45%	54%	37%	54%	27%	2%		
	単身	78	50%	41%	22%	19%	36%	22%	5%	15%	45%	44%	21%	41%	44%	51%	42%	44%	9%	5%		
	夫婦だけ	118	65%	49%	16%	24%	42%	19%	11%	6%	53%	60%	31%	50%	43%	53%	30%	47%	23%	1%		
	親と 20 歳未満の子	136	60%	49%	18%	25%	49%	15%	4%	4%	62%	54%	24%	46%	40%	53%	29%	53%	23%	3%		
	親と 20 歳以上の子	146	66%	49%	18%	23%	45%	21%	12%	5%	51%	55%	29%	57%	49%	50%	30%	53%	21%	1%		
	親と子と孫	28	61%	54%	11%	25%	39%	14%	7%	14%	54%	43%	7%	54%	43%	29%	25%	39%	21%	0%		
住居種別	持ち家（一戸建）	233	64%	46%	17%	25%	44%	20%	10%	9%	50%	50%	21%	49%	42%	49%	32%	48%	22%	1%		
	持ち家（マンションなど）	98	59%	50%	19%	23%	42%	15%	9%	5%	57%	62%	29%	55%	49%	53%	30%	56%	19%	2%		
	民間賃貸	123	59%	48%	14%	22%	44%	14%	4%	7%	57%	50%	28%	47%	45%	46%	26%	46%	14%	4%		
	公営・公社・UR 賃貸	38	61%	45%	21%	13%	50%	24%	8%	3%	53%	58%	34%	47%	34%	63%	37%	53%	32%	3%		
居住希望地	街なか	231	61%	47%	22%	21%	39%	19%	10%	8%	55%	57%	27%	52%	44%	53%	36%	52%	27%	2%		
	郊外の住宅地	176	65%	50%	15%	22%	46%	19%	7%	7%	56%	54%	23%	50%	51%	53%	28%	48%	19%	3%		
	農山村地域やリゾート地	30	50%	50%	17%	30%	50%	20%	23%	10%	43%	43%	37%	37%	33%	50%	30%	27%	7%	0%		
	特にこだわらない	75	52%	41%	9%	24%	47%	9%	1%	7%	44%	44%	21%	49%	33%	40%	21%	49%	7%	4%		
都心居住意向	現在、都心に住んでいる	38	50%	58%	21%	32%	50%	24%	11%	8%	66%	63%	45%	50%	47%	53%	39%	55%	21%	3%		
	早い時期に、移り住みたい	31	71%	45%	26%	16%	39%	23%	13%	6%	35%	48%	16%	52%	35%	55%	35%	52%	26%	3%		
	高齢になって移り住みたい	104	77%	49%	20%	27%	46%	25%	8%	3%	59%	63%	21%	54%	43%	60%	33%	52%	26%	1%		
	若いうちに一時移り住みたい	46	57%	57%	17%	20%	46%	17%	9%	4%	54%	54%	26%	41%	41%	43%	22%	46%	13%	2%		
	住んでみたいとは思わない	181	58%	46%	13%	23%	43%	17%	10%	9%	56%	52%	32%	51%	51%	51%	35%	55%	19%	2%		

(2) 拠点地区のまちづくり

①親しみを感ずる拠点

都心、副都心をはじめ市内の12の拠点地区⁽⁴⁾のなかで「あなたが親しみを感ずるのはどの地区ですか（回答は順位をつけて3つまで）」という設問に対し、1位として最も多いのは「小倉駅周辺（都心）（40.4%）」であり、3位まで合わせると、約7割が都心に親しみを感ずっている。次いで「黒崎駅周辺（副都心）（14.6%）」が多く、3位まで合わせると、半数近くが副都心に親しみを感ずっている。また、約4割が、『都心・副都心以外』の10の拠点地区のいずれかを1位に選んでおり、多い順に「折尾駅周辺（8.5%）」、「門司港駅周辺（6.5%）」、「戸畑駅周辺（16.5%）」となっている。3位までを合わせると、「門司港駅周辺」が都心・副都心以外では最も多い。

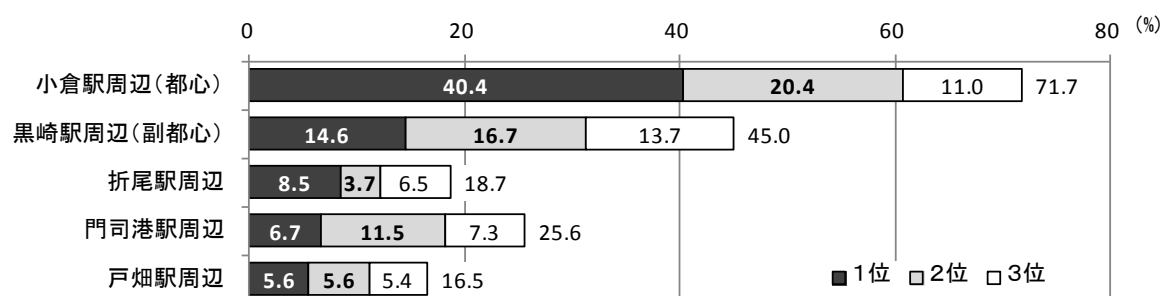


図6 親しみを感ずる拠点（上位5地区）

最も親しみを感ずる拠点について属性別にみていくと、まず、性別では、女性の方が『都心』、男性の方が『都心・副都心以外』が多い。

年齢別では、20歳代と50歳代は『都心』が多く、30歳代、40歳代は『都心・副都心以外』の拠点地区が多い。

行政区別では、小倉北区、小倉南区、八幡東区では『都心』、八幡西区では『副都心』が最も多い。その他の区では『都心・副都心以外』が多く、それぞれの地元の拠点地区が選ばれている。特に門司区では、約7割が地元拠点を選んでおり、『門司港』と『門司』がほぼ同数である。

市内居住歴別では、居住歴10年未満で『都心』の割合が大きい。

職業別では、自営業主で『都心』、非正規の雇用者、パートやアルバイト、主婦で『都心・副都心以外』の割合が比較的大きい。

家族構成別では、夫婦だけの世帯で『都心』、20歳未満の子がいる2世代世帯で『都心・副都心以外』の割合が比較的大きい。

居住希望地別では街なか居住希望者で『都心』が多い。

また、都心居住意向別では都心居住者や早い時期に移り住みたいという人で『都心』が多い。

②拠点地区の現況と商業衰退・活力低下の理由

i) 拠点地区の現況について

前問で、最も親しみを感ずると回答した拠点地区について、「現在の状況をどのように感ずているか」という設問に対し、『都心』については、「商業などの利便性は維持されているが、街の活気は低下しつつある（54.8%）」が最も多い。次いで「商業などの利便性は維持され、街は今も元気である（25.2%）」が多く、合わせて約8割が、利便性が維持されていると感ずている。

表7 望ましいまちづくり（その2）

回答率が高い順に

1 2 3

		(2) 拠点地区のまちづくり																
		①最も親しみを感じる拠点					②商業衰退・活力低下の理由(複数回答)											
		標本数	JR小倉駅周辺 (都心)	JR黒崎駅周辺 (副都心)	その他の拠点地区 (都心・副都心以外※)	特にない・わからない	標本数	大型店の閉店・撤退	地区外や郊外の大型 店への買い物客流出	他都市への買い物客の 流出	商圏人口の減少や高 齢化	バスや鉄道の便数の減 少	公共施設などの地区 外や郊外への移転	社会基盤整備の遅れ や老朽化	地域文化や郷土意識 の衰退	経済情勢の悪化	その他	
全体		520	40%	15%	38%	7%	220	33%	62%	30%	35%	6%	4%	20%	9%	38%	5%	
性別	男	270	38%	14%	41%	6%	118	28%	60%	28%	44%	6%	7%	27%	10%	41%	5%	
	女	270	43%	15%	35%	7%	102	38%	64%	33%	25%	6%	1%	11%	8%	35%	5%	
年齢	20～29 歳	104	42%	13%	34%	7%	38	39%	58%	34%	29%	5%	3%	26%	13%	29%	5%	
	30～39 歳	104	35%	20%	38%	10%	46	30%	72%	35%	30%	2%	4%	20%	9%	41%	4%	
	40～49 歳	104	38%	15%	41%	4%	45	36%	53%	29%	29%	7%	9%	9%	9%	49%	4%	
	50～59 歳	104	48%	9%	39%	7%	47	30%	62%	28%	43%	4%	2%	21%	4%	38%	6%	
	60～69 歳	104	38%	16%	38%	6%	44	30%	64%	27%	45%	11%	2%	23%	11%	32%	5%	
行政区	門司区	49	16%	0%	73%	6%	13	23%	38%	31%	46%	0%	15%	15%	0%	31%	8%	
	小倉北区	134	71%	5%	19%	5%	50	36%	58%	36%	38%	2%	2%	22%	10%	44%	4%	
	小倉南区	93	49%	0%	44%	9%	36	42%	58%	28%	22%	14%	6%	14%	14%	56%	3%	
	若松区	44	34%	16%	43%	5%	16	31%	81%	19%	44%	6%	0%	31%	6%	25%	0%	
	八幡東区	26	46%	4%	46%	8%	12	25%	25%	42%	42%	0%	8%	8%	8%	33%	0%	
	八幡西区	143	16%	42%	34%	8%	82	32%	74%	29%	32%	7%	4%	21%	9%	27%	7%	
市内居住歴	戸畑区	31	35%	3%	52%	0%	11	18%	36%	27%	64%	0%	0%	18%	9%	73%	9%	
	生まれたときから	154	41%	19%	36%	10%	68	37%	60%	31%	34%	4%	6%	15%	10%	34%	3%	
	5 年未満	65	46%	6%	34%	0%	18	33%	50%	44%	22%	6%	0%	28%	11%	33%	11%	
	5～10 年未満	33	52%	6%	36%	12%	8	25%	63%	13%	13%	0%	13%	25%	38%	50%	0%	
	10～20 年未満	55	38%	16%	36%	7%	23	30%	57%	22%	43%	17%	0%	26%	4%	43%	0%	
職業	20 年以上	213	37%	15%	42%	5%	103	31%	66%	31%	39%	5%	4%	19%	7%	40%	7%	
	正規の雇用者	177	38%	18%	36%	5%	87	37%	62%	32%	34%	2%	5%	25%	10%	38%	7%	
	非正規の雇用者	31	45%	10%	45%	3%	13	38%	77%	23%	54%	8%	8%	23%	0%	23%	0%	
	パートやアルバイト	66	38%	15%	42%	8%	18	33%	50%	39%	33%	6%	6%	0%	11%	33%	0%	
	自営業主	31	47%	15%	29%	9%	16	6%	56%	31%	56%	13%	0%	31%	0%	50%	0%	
	主婦	97	38%	14%	39%	8%	37	38%	70%	24%	19%	5%	0%	14%	5%	30%	8%	
	学生	24	42%	8%	38%	0%	5	40%	60%	0%	0%	0%	20%	20%	40%	40%	0%	
家族構成	無職(主婦、学生以外)	83	43%	12%	39%	8%	42	26%	57%	36%	43%	12%	5%	17%	12%	48%	5%	
	単身	78	40%	10%	38%	3%	27	30%	63%	37%	41%	4%	0%	37%	4%	44%	0%	
	夫婦だけ	118	48%	13%	33%	6%	46	50%	61%	28%	37%	4%	2%	13%	13%	30%	9%	
	親と20 歳未満の子	136	35%	18%	42%	10%	58	28%	60%	33%	24%	3%	12%	24%	7%	33%	7%	
	親と20 歳以上の子	146	42%	14%	38%	5%	70	27%	63%	31%	44%	6%	1%	16%	11%	41%	4%	
住居種別	親と子と孫	28	29%	21%	39%	7%	13	31%	77%	23%	31%	15%	0%	15%	0%	38%	0%	
	持ち家(一戸建)	233	36%	17%	40%	7%	111	32%	63%	28%	41%	10%	3%	16%	8%	34%	4%	
	持ち家(マンションなど)	98	55%	13%	29%	3%	38	32%	63%	34%	29%	0%	3%	21%	13%	37%	3%	
	民間賃貸	123	40%	11%	40%	9%	49	27%	57%	35%	29%	4%	4%	22%	10%	51%	6%	
居住希望地	公営・公社・UR 賃貸	38	39%	11%	45%	3%	15	40%	67%	33%	40%	0%	7%	33%	0%	47%	13%	
	街なか	231	46%	13%	36%	6%	108	38%	57%	37%	35%	3%	4%	19%	6%	41%	5%	
	郊外の住宅地	176	38%	16%	39%	3%	72	25%	69%	21%	32%	8%	6%	22%	15%	38%	3%	
	農山村地域やリゾート地	30	23%	13%	47%	10%	12	33%	42%	8%	92%	17%	0%	33%	8%	33%	8%	
都心居住意向	特にこだわらない	75	37%	17%	37%	12%	23	35%	70%	43%	17%	9%	4%	9%	4%	30%	13%	
	現在、都心に住んでいる	38	95%	0%	3%	8%	18	39%	44%	33%	22%	0%	6%	22%	17%	44%	11%	
	早い時期に、移り住みたい	31	58%	13%	23%	6%	14	29%	57%	36%	50%	14%	0%	21%	0%	43%	0%	
	高齢になって移り住みたい	104	44%	13%	38%	5%	55	42%	62%	31%	45%	5%	5%	16%	5%	33%	4%	
	若いうちに一時期住みたい	46	33%	15%	48%	11%	17	29%	71%	24%	41%	0%	0%	24%	6%	35%	0%	
	住んでみたいとは思わない	181	28%	20%	43%	6%	78	28%	68%	26%	29%	8%	6%	19%	13%	38%	5%	

※：主要駅の周辺地区(JR門司港駅、門司駅、スペースワールド駅・中央町、八幡駅、折尾駅、若松駅、城野駅、下曽根駅、モノレー
ル守恒駅、筑豊電鉄三ヶ森駅)

一方、『副都心』については、「商業の衰退や街の活力低下が進み、再生のきざしがみられない（50.0%）」が最も多く、今も街が元気と感じている人はいない。ただし、2割近くが、再生のきざしや動きがみられると感じている。

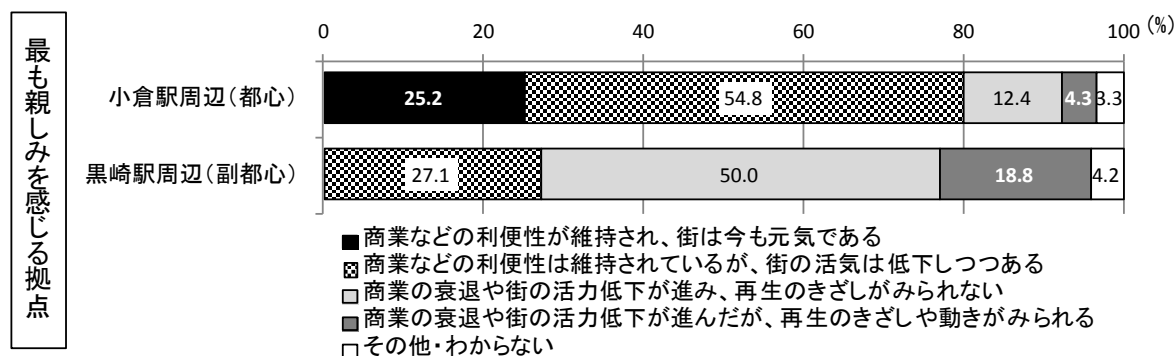


図7 都心・副都心の現況評価

ii) 商業衰退・活力低下の理由

上記の設問に対し「商業の衰退や街の活力低下」が進んでいると答えた人に、その「原因や理由はどんなことだったと思いますか（複数回答）」とたずねたところ、「地区外や郊外の大型店への買い物客流出（61.8%）」が最も多く、他の理由を大きく上回っている。次いで、「経済情勢の悪化（38.2%）」、「商圈人口の減少や高齢化（35.5%）」、「大型店の閉店・撤退（32.3%）」、「他都市への買い物客の流出（30.5%）」の順となっており、郊外との競合や購買力の低下・流出が大きな問題として認識されている。一方、「公共施設などの地区外や郊外への移転（4.1%）」や「バスや鉄道の便数の減少（5.9%）」を、拠点地区の商業衰退・活力低下の理由と感じている人は少ない。

副都心については『地区外大型店への流出』が特に多く、また、都心については、『経済情勢悪化』、『市外流出』の割合が比較的大きい。

性別では、女性の方が『大型店撤退』や『地区外大型店への流出』が多く、男性の方が、『商圈人口減少・高齢化』、『経済情勢悪化』、『社会基盤整備の遅れ・老朽化』が多い。

年齢別では、20歳代で『大型店撤退』、30歳代で『地区外大型店への流出』、40歳代で『経済情勢悪化』、50歳代、60歳代で『商圈人口減少・高齢化』の割合が、他の世代より大きい。また、20歳代、30歳代では『他都市への流出』の割合が比較的大きい。

行政区別では、門司区では『商圈人口減少・高齢化』、小倉南区で『大型店撤退』、若松区と八幡西区で『地区外大型店への流出』、八幡東区で『他都市への流出』、『商圈人口縮小・高齢化』、戸畑区では『経済情勢悪化』の割合が比較的大きい。

市内居住歴別では、居住歴5年未満で『他都市への流出』の割合が比較的大きい。

職業別では、非正規の雇用者で『地区外大型店への流出』、『商圈人口減少・高齢化』、パートやアルバイトで『市外流出』、自営業主で『商圈人口縮小・高齢化』、主婦で『大型店撤退』の割合が比較的大きい。

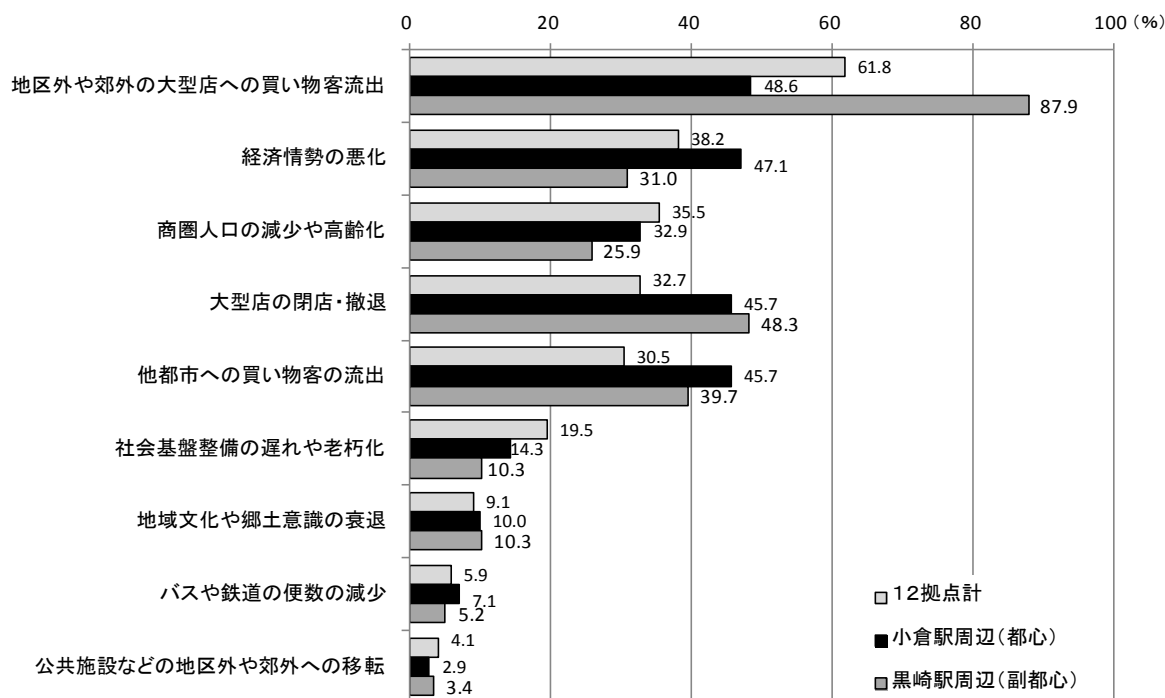


図8 最も親しみを感ずる拠点地区の商業衰退・活力低下の理由

家族構成別では、単身世帯で『経済情勢悪化』、夫婦だけの世帯で『大型店撤退』、20歳以上の子がいる2世代世帯で『商圈人口減少・高齢化』の割合が比較的大きい。

住居の種類別では、持ち家の一戸建居住者に比べ、持ち家のマンション居住者や賃貸住宅居住者の方が『他都市への流出』の割合が大きい。また、賃貸住宅居住者は持ち家居住者に比べて『経済情勢悪化』の割合が大きい。

居住希望地別では、街なか居住希望者で『経済情勢悪化』、『大型店撤退』、一方、郊外居住希望者で『地区外大型店への流出』の割合が比較的大きい。

都心居住意向別では、現在都心に住んでいる人で『経済情勢悪化』、高齢期になって移り住みたいという人で『経済情勢悪化』、『商圈人口減少・高齢化』の割合が比較的大きい。また若いうちに一時期住みたいという人や住んでみたいと思わない人で『地区外大型店への流出』の割合が比較的大きい。

〔注〕

(1) 国土交通省都市・地域整備局都市計画課「政策課題対応型都市計画運用指針策定の趣旨について」http://www.mlit.go.jp/crd/city/plan/unyou_shishin/shishin02.htm (2012年2月10日)

(2) 参考文献[伊藤、2012]

(3) アンケート調査では、「都心」の範囲について「小倉駅の周辺だけでなく、国道3号の内側の、砂津～三萩野～木町・大手町あたりまでを含むエリア」と説明している。

(4) 北九州市の基本計画（「元気発信！北九州」プラン）において主な生活支援拠点として位置づけられている12地区を対象とした。

Ⅲ 市民意識調査を踏まえた都市づくりの課題

1 街なか居住について

住み替えることになった場合に選びたい場所についてたずねたところ、「街なか」が最も多く、「郊外の住宅地」や「農山村地域やリゾート地」を上回った。現住地への不満や不安意識が強いほど街なか指向が強く、都心に早い時期に移り住みたいという人の9割近くが現住地に不満を持っている。不満の多くは買い物、交通などの利便性に関するものであり、高齢期を前にして利便性低下への不安意識は強まっている。そのため、中高年層の方が若者層よりも街なか指向は強く、50歳代では都心指向も強い。ただし、不満や不安を感じていても、やはり郊外がよい、今とあまり変わらない場所がよいと思う人は多く、30歳代で郊外指向が強いことから、子育て環境は郊外の方がよいという人は多いと思われる。しかしながら、小倉南区や八幡西区でも高齢化が加速し、現住地の将来に不安を持つ人は多く、子どもの自立や退職を経て、郊外よりも生活利便性を維持しやすい街なか居住を選ぶ人は、確実に増えていくと思われる。また、女性の方が男性よりも街なか指向や都心指向が強いことから、女性の社会参加が進めば、街なか居住の需要増につながると考えられる。

既に、居住の街なかシフトは進んでおり、市内の不動産事業者を対象に2008年に実施した調査でも、住宅市場として街なかの方が郊外よりも評価が高い⁽⁵⁾。街なかの区域について、2005策定の北九州市都市計画マスタープランでは、“相対的に人口や産業の密度が高く、買い物の利便性が高く、都市基盤や公共施設などが充実し、公共交通の利便性が高い区域”として、概ね1970年の人口集中地区（D I D）を想定しているが、加えてその外側でも、生活拠点⁽⁴⁾とその周辺を、街なかと同様に位置づけている。本アンケートの回答者がイメージする街なかも、都市計画マスタープランの考え方と大きく変わらないが、さらに、将来にわたって生活利便性が維持される場所としてイメージされており、そのような期待に応えることができるようなエリアをさらに明らかにしながら居住機能の効率的な充実・強化を図っていくことが、持続可能な都市づくりには不可欠である。

街なか居住再生に向けた課題は様々であるが、アンケート結果から、現住地の景観や雰囲気に対する不満を持つ人がかなり多いことに留意する必要がある。とりわけ20歳代では不満の第1位が景観や雰囲気であり、買い物や通勤の利便性よりも景観や雰囲気が大事だと考えられていることがわかる。景観行政とともに緑化活動や美化活動など市民を巻き込んだ取り組みを通じて、都市的なアメニティを実現していくことが大きな課題である。

2 中古住宅の活用について

今後住み替えるとした場合に選びたい住宅として、持ち家の一戸建が最も多く、約4割である。2003年の住宅需要実態調査⁽⁶⁾では約5割であったことから、一戸建指向は弱まっているようにみえるが、2008年の住生活総合調査⁽⁶⁾では本調査とほぼ同じ約4割であり、近年はあまり変化がなく、根強い一戸建指向がみられる。

現住居と同様の住み慣れたタイプの住宅を選ぼうとする傾向がみられ、一戸建に住んでいる人のうち、住み替えるとしてもできれば一戸建という人が約5割を占める。街なか居住希望者でも約3割が一戸建を希望している。しかし、40歳代以上ではマンション指向も強まり、高齢期の住まいとしてマンションは有力な選択肢となっている。

一戸建とマンションを合わせて持ち家を希望する人は約6割を占めるが、購入するとした場合の中古住宅の選好度について、「新築を優先するが、中古住宅も検討したい」と「中古住宅を優先的に検討したい」を合わせて約7割が、中古住宅でも構わないと考えている。これは一戸建希望でもマンション希望でも、ほぼ同様の結果であった。

中古住宅選択の動向について、2008年に西日本トータルリビングショー来場者を対象に実施した調査⁽⁷⁾の結果と比較すると、今回の調査では『中古優先』の割合が大きく増え（5%→24%）、一方、『新築だけ』の割合はかなり減少し（36%→16%）、少数派となっている。また、大手不動産会社による最近（2013年1月）の調査⁽⁸⁾によると、「新築のみ検討する（29.1%）」が「中古のみ検討する（9.9%）」をかなり上回っており、全国的には依然として新築優先の傾向が強い。これらの調査では、住宅購入を具体的に検討している人を対象としているため新築指向がより強くあらわれていると考えられるが、その点を勘案しても、北九州市の中古指向は全国的傾向を上回り、近年、明らかに強まっているといえる⁽⁹⁾。

以上のように、一戸建指向は根強いが、中古住宅への抵抗感は弱まっており、入手しやすい一戸建中古住宅の潜在的なニーズは高いと思われる。価格だけでなく立地条件なども勘案してより良い選択をしたいと考える人が増えていると思われる。現状では街なかの一戸建中古住宅の流通件数は多くない。しかし、その予備軍ともいえるストックは大量である。

今後、さらに、マーケティングの視点から中古住宅の商品化に役立つような具体的なニーズ調査を行っていくことが課題である。比較的良質の中古物件の再生、流通が進めば、問題のある住宅の「淘汰」や質の良くない住宅供給の抑制にもつながり、全体的な住宅水準が高まるのではない。そのようなプラスの効果を追求しながら対策を図っていくことが必要である。

3 公共交通について

日頃利用する交通手段として自動車（自家用車、会社や友人の車、タクシー）だけを利用し公共交通を利用しない人は、通勤でも買い物・レジャーでも44%を占める。若松区で自動車の利用度が特に高いことから明らかなように、公共交通の不便さがマイカー依存の大きな理由である。ただし、自動車だけを利用する人は、公共交通を利用しない理由としてマイカーの利便性や快適性を挙げる人が多く、それに対して公共交通の不便さを理由とする人はさほど多くない。公共交通に不満は無くても、便利で快適なマイカー依存のライフスタイルを変えることは難しいことがわかる。通勤以上に買い物やレジャーでの自動車利用度は高く、生活の質を維持していくためにもマイカーの役割は大きなものとなっていると思われる。

しかし、マイカーをよく利用しているという人のうち約4割が、できるなら今後は公共交通を利用したいと考えており、既に公共交通をよく利用している人を合わせると、“公共交通派”が“マイカー派”を上回っている。ただし、“公共交通派”はマイカー否定ではなく、それぞれの利点を活かして賢く使い分けたいという人が多いと思われる。公共交通への不満が大きい若松区でも“公共交通派”が約半数を占めており、公共交通維持の必要性は高い。

また、属性別にみると“公共交通派”が比較的多いのは女性、中高年、パート・アルバイト、学生、無職などであり、身体的、経済的交通弱者の足の確保とともに、社会参加の促進という観点からも、公共交通の有用性を評価し、サービスの維持・向上を図っていく必要がある。

4 歩いて暮らせる街づくりについて

高齢者などの自動車が利用できない人も生活しやすいように、歩いて暮らせるまちづくりの必要性を感じている人は、中高年層だけでなく若い世代にも多い。また、歩いて暮らせるまちづくりによって自動車による環境負荷や交通事故を減らすことができると考える人も多い。なかでも、主婦や学生では環境負荷の低下を、また、子育て世帯では交通事故の減少をメリットとする傾向が比較的強い。八幡西区では黒崎をはじめ中心市街地の活性化につながると考える人の割合が、また、八幡東区ではコミュニティの維持につながると考える人の割合が他区よりも大きい。このように、様々な観点から、歩いて暮らせるまちづくりのメリットが認識されており、市民の期待は大きいといえる。

その、実現に必要な取り組みとして、本アンケートでは交通に関する対策についてたずねたが、回答として安全・安心な歩行者環境整備とともに公共交通対策を挙げる人が多い。公共交通の維持は歩いて暮らせるまちづくりに不可欠であり、そのような認識の広がり、先にみたような“公共交通派”優勢の背景にあると思われる。また、自転車空間の分離や駐車・駐輪対策といった交通マナーや交通ルールに関する改善要望も半分近い。

北九州市は他の大都市に比較して人口当たりの道路整備量は多いといえるが、そのメンテナンスのための財政負担も大きい。歩道や交通安全施設の水準を維持するための財源確保がまず必要であり、その上で、ソフト面での安全対策を促進していくことが課題である。

また、幹線道路は重要な景観形成要素であり、さらに、街なかにおいては緑、日照、通風といった機能を担うオープンスペースとして重要である。街なか居住の項でも述べたが、道路の緑化や清掃への市民参加促進が課題であり、歩いて楽しい道づくりが住みたいと思う人を増やし、街なか居住の再生につながっていくと思われる。

5 拠点地区のまちづくりについて

親しみをを感じる拠点地区として、小倉都心を第1位に挙げる人が4割を占め、第3位までを合わせると約7割が都心に親しみを感じている。行政区別にみると、やはり地元の拠点地区を選ぶ傾向が強いが、小倉南区と八幡東区では、地元拠点ではなく都心を第1位に挙げる人が多い。小倉南区の拠点である守恒、下曾根は商業以外の拠点機能が弱く、また、八幡東区では、イオン八幡はあるが中央町や八幡駅周辺は吸引力を持つ機能を欠いている。このように、都心以外の拠点地区の機能の弱さや低下が都心への依存と親近感を強める結果となっていると考えられる。

しかし、都心に最も親しみを感じている人でも、その過半数が、商業などの利便性は維持されているが街の活気は低下しつつあると感じている。一方、副都心の黒崎について、商業吸引力は大きく低下しているが、大きな人口を抱える八幡西区の区民にとって最も親しみを感ずる拠点の第1位は黒崎であり、今も親近感を持ち続けている人は多い。また、黒崎に最も親しみを感じている人の約2割が再生のきざしや動きを感じており、文化交流拠点の整備やコミュニティの再開などによって街の再生への期待は高まりつつあると思われる。

拠点地区の商業の衰退や街の活力低下の理由として、地区外的大型商業施設への買い物客流出を挙げる人が多く、特に黒崎は地区外に競合する施設の立地が相次ぎ、商業機能の強化によって競合力を回復することはかなり難しい状況にある。一方、都心については、今も商業等の

利便性が維持されいると感じている人が約8割を占めるが、経済情勢が厳しさを増すとともに商業機能の維持や業務機能の回復がますます重要な課題となっている。

都心においては、居住再生の動きを街の魅力づくりにつなげることが、商業機能、業務機能を維持していく上でも重要である。都心居住者の生活満足度は総じて高いが、景観や雰囲気に関する不満度は他の地域の居住者よりも高く、改善すべき余地は大きいといえる。また、黒崎でも、コムシティの再開を契機に居住の再生と併せた副都心機能の充実を促進していくことが課題である。都心、副都心のまちづくりを都市の基本政策として位置づける必要性はますます高まっている。長期的な行政目標としての将来像とともに、将来に向けて街の魅力や価値が高まっていく展望としての将来像が求められている。そのような将来像が共有されれば、開発事業者は目標設定や事業展開が図りやすくなり、また、市民は具体的な都心、副都心のイメージを育むことができ、街への愛着が形成され、市民に支えられる持続的なまちづくりが可能になると思われる。

都心、副都心の機能充実は他の拠点地区にもプラスの効果があると考ええる。都心に住みたいという人の多くは現住地での生活に不満や不安を抱えている。そのような人達が選ぶことができる安心して便利に暮らせる街の選択肢は多い方が望ましい。既に都心以外の拠点地区でも居住再生の動きがみられ、今後もその傾向は続くと予想される。都心と鉄道で直結する拠点地区の居住者は都心の生活利便機能等を利用することが比較的容易である。そのような都心と他の拠点地区間の連携によって都市の暮らしやすさを維持していくことが人口減少社会においてますます重要となっていくと思われる。

IV おわりに

本研究では、市民の共感にもとづいて住みよい都市づくり、魅力ある都市づくりを進めていくことが必要という観点から、市民意識を把握するための調査を行った。全国共通の政策課題であるコンパクトな都市づくり、中心市街地の再生、中古住宅の活用、公共交通の維持などに関する問いかけを行うことによって有益な情報が得られたと考えるが、分析については一次的な段階にとどまっている。市民意識やその動向をより明らかにするためには、さらに追加・継続的な調査、他の調査結果との比較、実態調査などを行っていくことが必要と考える。

(都市政策研究所 教授 伊藤解子)

〔注〕

(5) 参考文献[伊藤、2011b]

(6) 国と市が協力して概ね5年毎に実施する全国調査であり、2003年度までは住宅需要実態調査、2008年度から住生活総合調査として実施されている。(有効回答：2003年調査5,939人、2008年調査4,492人) (<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000091347.pdf>)

(7) 参考文献[伊藤、2010]

(8) 野村不動産アーバンネット株式会社が、不動産情報サイト「ノムコム（購入検討者を中心としたWeb会員組織）」の会員を対象に、2013年1月に実施した調査。有効回答数は1,837人。

(9) 2008年度の住生活総合調査(6)でも同様の調査を実施しており、その結果は、「新築」36.7%、「中古住宅」3.4%、「特にこだわらない」39.8%であった。

〔参考文献〕

- 伊藤解子(2010)「良好な住宅ストック形成に向けた中古住宅流通の課題」、北九州市立大学都市政策研究所『2009年度地域課題研究報告書』、pp1-22
- 伊藤解子(2011a)「中古住宅流通促進の課題－北九州市における空き家の現況や需要者・供給者のニーズ調査を通じて－」、北九州市立大学都市政策研究所『都市政策研究所紀要 第5号』、pp19-42
- 伊藤解子(2011b)「持続可能性からみた居住地の評価に関する調査研究」、北九州市立大学都市政策研究所『2010年度地域課題研究報告書』、pp1-32
- 伊藤解子(2012)「都心居住に関する市民意識」、北九州市立大学都市政策研究所『2011年度地域課題研究報告書』、pp1-20